三池と離れていても……

便りの中から二つ

ただいま組合には、方々の仲間たちから、たくさんの便り（激励やカンパなども）が寄せられてきます。ここに紹介する二つも、それらの中のものです。感謝の意をこめて、いっそう自分をはげましがんばりましょう。

山田季良さん

こつこつやる闘いの中に……

三池の仲間の皆さん、こんにちは。私は保険会社に働く労働者です。いま、私たちの職場にどういう合理化がかけられ、どう闘っているかをご説明しましょう。

保険会社というところは銀行と同様、「信用」という手かせ足かせをはめられた窮屈な職場です。ホワイトカラーで一見華やかに見えますが、朝から晩まで数字に悩まされ、金に追いまわされ、うすっぺらな紙の山にうずもれているのが現状です。

労働者を搾取することによって肥りに肥った資本家たちは、コンピューターなどの機械を導入し、さらに利潤を得ようとしています。

金融の職場にパンチャー病、情緒不安定、自殺者などが多いのは、以上のような環境がもたらすものです。資本のあくなき利潤追求によって片輪にされ、職場からポイされる労働者があとを断ちません。

私のところも他の例にもれず中枢にはコンピューターがでんとすわっているそうです。私たち末端の職場では、人間がコンピューター好みの処理をさせられますのでとてもたまりません。機械から人間がふりまわされるという本末転倒したこの現実は、資本主義社会のもたらす弊害です。機械をうらんでもしようがありません。それをあやつっている資本家が、最高に悪いのです。

組合分裂によってはげしく合理化がかけられている中で、私たち全損保の組合員は、「反合理化の闘いの基本は絶対反対である」と位置づけ、抵抗闘争をやっています。なにせ少数ですからすぐ勝利ということはありませんが、こつこつやる闘いの中に勝利が秘められているとの確信をもって、がんばっています。

私たちのまわりには、多くの第二組合員がいます。彼らは、日夜もくもくと働いています。堅くとざされた彼らの心の門を少しでも開いて、「反合理化」の清くすみきった風を送るべく努力しています。

私たちのこうした闘いはいつの日にか、必ずや勝利をもたらすのです。その日へ向かって、大いに闘おうではありませんか。

三池の仲間の皆さん、元気にがんばりましょう。

×

（なお山田さんは全損保富士支部福岡分会所属で、お住まいは「長崎市高平町一五〇」です）

吉田洋一さん

私に力はありませんが……

第一組合の皆さま、お元気でしょうか。

私たち、社青同姫路支部で、私とそちらにおられた同志蓮尾さんと支部の中村同志が中心になって、このほど行なわれました春闘講座の場を借りて、CO患者守る会を、スライドを使って呼びかけました。その結果評判も良く、「あのスライドを見て何も感じない者は、労働者ではない」等々という声が多く聞かれます。

現在確実なCO患者守る会員が五名いますが、近く結成会を行ないますので会員数が明確になりしだい、当面の活動問題とか学習について、全員で討議していきたいと思っています。

ところで私の自己紹介が遅れましたが、姓名は吉田洋一（よしだひろかず）です。生まれは兵庫の山の中、加西市の青野ケ原という所です。最近ナイキJの問題で、新聞の紙面をにぎわしています。

職場は富士製鉄（新日鉄）広畑で、入社して三年目を迎えます。社青同に入ったのは、昨年の六月でした。現在CO関係で頑張っています。

現在の広畑の状況は、昨年の十月に会社から提案された四組三交替の問題が、討議不十分なまま妥結され、四月から入っている現状です。

四組三交替というのは、いままで三組三交替で行なっていたのを、人員を減らして、三組を一組ふやして、四組で三交替を行なうということです。

内容は昼食時間を短かくして（現在の五十五分を四十五分に）、年間休日を増す（現在七十三日を八十四日に）。そして年休（有給休暇）を「予備直」という名で、七日先取りして、八十四日の年間休日と合わせて九十一日とするというような、バカげた内容です。そして四十五分の昼食時間も、三十分と十五分間に分割して取らせる等々、本当に人間性を無視した資本の合理化の一端として表われてきました。そのために、若い人に限らず、役付層までがやめていっています。早や春闘ですが、職場では夏季一時金をもらってやめる、という人が少くありません。私たち社青同、あるいは党はたえずビラを入れたり個人的に話をしたりしながら活動してきました。その結果、私が同盟に入ってから二人の同志を迎えることができました。

私たちと三池とは、相互に遠く離れていても、労働者解放のために闘う同志です。私にはまだ皆さんのような、大きな力はありません。しかし、本当に人間らしく生きられる社会がくるまで闘うことを、皆さんに誓います。

では新しい社会がくるまで！

×

（なお吉田さんのお住まいは「兵庫県姫路市広畑区高浜町第一高浜寮内」です）

このうたを歌おう！

永江さん作詩、作曲〝いま俺達は〟

私たち職場の同じ働く仲間、開発仕繰の永江藤登さんからすばらしい「うた」（別項参照のこと）が贈られました。

永江さんは〝三鉱楽団〟で活躍され、その後四山に青年部を中心としたギターサークルが発足すると、こんどはサークルとしての育成と指導に一生懸命になって、その熱意は若者の及ぶところではありません。この永江さんの熱意は貴重です。

永江さんに、暖い理解の言葉をかけましょう。そして永江さんの作詩作曲になる〝いま俺達は〟のうたを、大いにうたいましょう。

……四山職場六分会新聞から

×

「いま俺達は」の歌詞は次の通りである。

（一）

いま俺達はうたう働く者の歌を
いま俺達はうたう青い空の下で
未来を見つめ声高らかに
しあわせの歌
このうた声は遠く
世界の果てまでも

（二）

いま俺達は集う闘う仲間達と
いま俺達は集う職場の仲間達と
このひとときを明日の糧に
語り合おう
明るく澄んだ瞳
誇り高い友よ

（三）

いま俺達はゆく足音高く
いま俺達はゆく差別に耐えて
苦しさ忘れ明日のために
闘いすすむ
いま俺達はゆく
働く者のために

職場笑談

係員　穴くったら、早くマイトばこめてエ。さ、さ……。

先山（ベテラン＝以下同）こまった、こまった。

係員　こまることたなかろう。

先山　こまったけん、こまったつたい。

係員　妙なこつばいうねエ。俺ばなめとっとか。

先山（ムッとして）ヨゴレばなめらるるか。

係員　こまったもんだ。

先山（すかさず）こまったもんは、マイトじゃろもん。

（宮浦の〝よあけ〟から）

私たち「安保と三池」を闘つた三池炭鉱労仂者は、闘いの中から仂く者のうたを数多く生み出してきました。だが、しばらくその活動が絶えました。いま永江さんの作品に接することができ、うれしくてたまりません。ぜひこのうたを、各耺場に、全地域に広げましょう。

スチールは映画〝君が若者なら〟のとある場面

〝君が若者なら〟

いよいよ27日より公開

「明日また生きる」と共に、きたる二十七日から大牟田〝中央松竹〟で上映される映画〝君が若者なら〟はすでに開催された試写会で大評判となったもの

▼**あらすじ**

喜久男（石立鉄男）、麻男（前田吟）、清（河原崎長一郎）、一郎（林秀樹）、竜次（峰岸隆之介）の五人は、それぞれの生れ故郷から、中卒の〝金の卵〟と騒がれ、集団就職で上京し、ある町工場で一しょになった仲間だ。

ところが工場があっけなく倒産して、失業した五人が、だれいうともなしに、みんなで力をあわせて、トラックを買い、独立する計画を話しあった。そのトラックに早くも「独立NO1」という名称を考えだしたのは竜次だった。

五人はそれぞれ職をもとめて働きはじめた。そしてみんなの貯金も五万、十万とふえてきた。しかし竜次がスト破りに雇われたばかりに警備隊になぐられて死亡した。清は窃盗で刑務所に入り、一郎も家庭の事情で恋人（太地喜和子）のもとへ去った。

とうとう喜久男と麻男の二人だけになったが、がんばった甲斐があって、念願のダンプを手に入れることができた。そのころ、服役中の清の母とよ（荒木道子）と妹ユキ子（寺田路恵）が、田舎の家をたたんで喜久男たちをたよって上京してきた……。

職場短信

反動職制がソーレッツ講演

九州電力の職場では経営能率刷新運動が強引に進められ知性の低い反動職制が幅をきかせるようになっている。労務部のある課長は、研修所で「安保は絶対に必要だ。日本の再軍備は強力に推進しなければならない」と述べ、しかも「総選挙で社会党はもっと負ければよかった。経営刷新に反対するものは会社をやめろ」とソーレッツな講演。職場では、最近全九電とけんかすると点数があがる傾向があるため、彼はそれを計算してあんな講演をやったのだ、といううわさもある。（全九電）

【KNA】